

創立30周年を迎えて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊藤, 通玄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025308

創立30周年を迎えて

伊藤通玄*

本会は地学および地学教育の普及・発展をはかり、お互いに研修して地学教育上の諸問題を解決し、地学の研究を協力して進めることを目的として1964年6月に結成され、本年6月をもって満30年を迎える。既に昨年6月には杉村新先生(元神戸大学理学部教授)をお招きして第30回総会を記念した「公開講演会」、さらに「記念の集い」を開催し、本会の歩みを回顧するとともに、今後のありかたを考える機会をもうけたが、満30年を迎えるにあたり私見の一端を述べ、会員諸氏の活発な問題提起と諸活動への参加を切望する。

本会の活動を10年ごとに区切り、その歩みを大胆にまとめると、第1期(1964-73年)は会員数約100名ほどの小規模組織でのスタートであったが、会員および運営委員の並々ならぬ努力と教育委員会をはじめとする関係諸機関・団体のご支援により、活発・多様な活動(講演会・講習会・野外観察会・見学会など)を展開し、静岡県産岩石標本の頒布や機関誌「静岡地学」および地学会資料の発行などを通じ、会員数300名規模に拡大した発展期といえるが、創設間もない1966年1月に佐々倉航三初代会長(静大教育学部)を失うという悲しみも味わった。

第2期(1974-1983年)は第1期の多様な活動を引継ぎ、会員数400名を越えるまでに成長し、創立10周年記念出版「東海自然歩道の地学案内」(1976年)、創立20周年記念出版「えんそくの地学～静岡県の地学案内～」(1982年)が発行され、20周年記念巡検としてニュージーランド巡検(1983年)が実施されるなどの記念すべき成果があった成長期といえるが、この間6期12年に亘り本会の発展に尽力された桐谷文雄会長(静大理学部)を失うという痛恨事もあった。

第3期(1984-1993年)は第2期までの活動を踏まえた安定期といえるが、1992年4月には本会創設以来、事務局において庶務・会計・行事・出版に亘る多様な会務を的確・迅速に処理して下さった半田孝司会員(静大教育学部)が常葉短大に栄転(1992年4月)された。これを機に事務局体制の分業化を図ったが、未だに円滑な運営とはいえず、会員各位に迷惑をお掛けしている点を心苦しく思っている。同年8月には、本会の生みの親、育ての親ともいえる鮫島輝彦会員(元静大教授、オーストラリア大学客員研究員)を失うという悲しみもあったが、この悲しみを乗り越えて新たな道を切り開く必要がある。

本会の今後についてであるが、社会の急速な進展とともに多様化する会員の興味・関心に応え、いかに活動の活性化を図るかが大きな課題といえよう。これまでの活動目標である「地学および地学教育の普及・発展」「地学研究の推進」にとどまらない幅広いアプローチが必要と思われる。「国土の保全と防災・減災への対処」はもちろんのこと、「地球環境の急速な変化への対処」、「資源・エネルギーの効率的利用とリサイクル」などの課題に対しても、多様な職種・専門分野に亘る会員諸氏の活発な問題提起、研究成果の発表や機関誌への投稿、諸活動への積極的参加を重ねて切望する次第である。

* 静岡大学教養部(会長)